



# ウトナイ湖通信

No.164

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

## トピックス

### あけましておめでとうございます

当センターが開設されて15周年を迎えた昨年も、多くの皆さんにご利用いただきました。改めて御礼申し上げます。

四季折々の自然を紹介しながら、特に水鳥の重要な生息地であるウトナイ湖について知っていただく、また、人為的な理由で収容された傷病野生鳥獣の救護にあたる、という開設時からの目的どおり、本年もさまざまな活動を展開したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



### 「第3回 野生動物に学ぶ救護セミナー」を開催しました

11月26日(日)、本年度最後のセミナーを開催しました。今回のテーマは「身近な外来種」。まずは、環境省の職員による「あなたの身近に外来種～何が問題？ 何ができる？」と題した講話が行われ、続いて当センターの獣医師が「身近なカメのお話」と題して、今年、市内の公園で捕獲されたスッポンの事例を中心に話題提供を行いました。会場では、特定外来生物のウチダザリガニの標本も展示され、市内外から集まった26名の参加者のみなさんは、たいへん興味深そうに話に聞き入っていました。



セミナーの様子



### 昨シーズン同様、結氷が進んでいます

12月上旬からの寒さにより、湖はすでに9割ほどが結氷しています。マガンやコハクチョウは宮城県などの越冬地に向けて移動し、姿がありません。12月下旬現在で残っているカモ類は、ヒドリガモ、マガモ、ヨシガモ、ミコアイサなどです。また、オオハクチョウは越冬する個体が50~100羽前後見られます。



残る水面近くの氷上で休むオオハクチョウの一群





マヒワ

【自然観察路情報】

2017年12月7日(木) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

オオハクチョウ、ダイサギ、オオセグロカモメ、トビ、コゲラ、アカゲラ、カケス  
ハシブトガラス、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ゴジュウカラ、マヒワ、ホオジロ

《植物》

カンボク、ニシキギ、ツルウメモドキ、ヤマウルシ、ナナカマド  
カラコギカエデ、ヤチダモ(以上、実やタネ)、キタコブシ(冬芽)、フッキソウ(緑の葉)

《昆虫・その他》

ミヤマカラスアゲハまたはカラスアゲハ(さなぎ)  
エゾリス、キタキツネ、ネズミの仲間(以上、足跡)



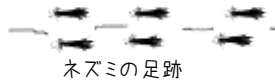
ハシブトガラ



ヒヨドリ



オオハクチョウ



ネズミの足跡

【水鳥カウント調査結果】

2017年12月14日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 \* ( )内は個体数、(±)は「前後」の意味

コブハクチョウ(4)、オオハクチョウ(27)、ヒドリガモ(10)、マガモ(24±)  
ホオジログアモ(28±)、ミコアイサ(4)、ダイサギ(1)、オオバン(5)、オジロワシ(1)  
オオワシ(1)、種不明カモ類(30±)



マガモ



ヒドリガモ



1月の自然予報



水鳥の多くは南下し、数が少なくなりました。結氷していない水面には、ヨシガモやマガモ、ミコアイサ、ホオジログアモなどが見られるでしょう。



水鳥が去った後のお楽しみは、ワシウォッチング。周辺の大木や凍った湖の氷上にオジロワシやオオワシの姿があるはずです。



枝先に残っている木の実や冬芽ウォッチングが楽しめるでしょう。キハダの黒い実にはヒヨドリやツグミなどが食べに集まっています。



雪の積もった自然観察路でのお楽しみは、生きものたちの痕跡を探すこと。キタキツネやエゾユキウサギの足跡は比較的よく見られます。



柔らかい毛で被われたキタコブシの冬芽綿帽子のように雪をかぶる



冬も活発に動くエゾリス。ハンノキの種子を食べる

【 イヌコリヤナギ 】

今年の干支、戌(イヌ)が名に付いています。漢字で書くと「戌(犬)行李柳」。コリはコウリが転じたもの。その行李は、コリヤナギの皮を麻糸で編んで作った入れ物のこと。また、「犬」には役に立たないという意味があり、つまり、細工には使えないヤナギ、ということのようです。ウトナイ湖では湖岸の自然観察路でよく見られます。



ウトナイ湖に関するクイズ。  
毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。  
あなたもウトナイ博士になれる?かも。

Q. ウトナイ湖周辺に生息する次の動物のうち、今年の干支である「戌(いぬ)」と同じ仲間でないのは、どれでしょう。

(あ) エゾタヌキ



(い) アライグマ



(う) キタキツネ



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

2017年 12月 7日 噴れ

苫小牧市内の建物の窓にぶつかり、飛べずにいたところを発見

ヒレンジャク

体重 38g

—診察中—



—竹カゴ内にて、経過観察中—

12月7日 午前9時頃、当センターに搬入。明らかな外傷は認められなかったが、呼吸は早く、目を閉じている状態だった。全身打撲による呼吸器損傷の疑いがあったため、安静処置および酸素吸入を施し、経過観察とした。

3時間程経過すると、容体は安定し、ケージ内で飛び回るようになった。その後もしばらく様子を見たが、変わらず安定した容体だったため、

リリース 夕方、リリースに至った。

ヒレンジャク（スズメ目レンジャク科）

北海道では、旅鳥または冬鳥として、平地から山地の森林に生息し、渡来数は年により大きく変動します。木から木へと群れで移動し、実を採食します。外見はキレンジャクに似ていますが、本種は尾の先端と下尾筒が赤く、下腹部が黄色、過眼線の黒色部が冠羽の縁まで続く等の違いがあり、見分けることができます。

